

< 題 目 >

研究発表者名・所属

共同研究者名・所属

連絡先（住所・TEL・E-mail）

【概要】

日本語（200～250 字）で記述下さい

キーワード：（5つ以内）

1. 教育改善の目的・目標

問題の所在を具体的に明らかにし、アクティブ・ラーニング、PBL(問題発見・課題解決型学習)等による教育方法の改善、遠隔(オンライン)授業導入による教育方法の改善等による教育方法の改善、学修成果の測定と可視化など、教育の質向上に向けた ICT 利用による教育改善の具体的な目的・目標及び解決策を研究する意義を明瞭にして下さい。

(例) 問題の所在 : 基礎学力の不足、自ら学び考える主体性の不足、学修意欲の不足、教室外学修時間の減少、遠隔事業の課題など

(例) 研究の目的・目標 : 知識・技能の定着・活用、思考力・判断力・表現力の獲得、問題発見・解決力の向上、実践力の向上、主体性・多様性・協働性の獲得、学修過程及び学修成果の可視化による成長支援、質を伴った学修時間の増加、遠隔授業の改善充実など

2. 授業概要と教育改善の内容

教育改善の目的・目標を達成するために、ICT を利用して、どのように改善しようとしたのか、改善の内容及び方法を示して下さい。

(1) 授業概要

ディプロマポリシー及びカリキュラムポリシーとの関係性、学修到達目標、事前・事後の学修時間数、学修成果の評価方法、配当年次、単位数、クラス数、履修者概数など

(2) 改善内容

改善を始めた時期と期間、改善の授業形態(双方向型授業、反転授業、遠隔授業、PBL、TBL、事前・事後学修、協働学修など)、改善研究の仕組み(PDCA)や改善で使用するツール、大学組織としての支援の有無など

3. 教育実践による教育効果とその確認

学びが向上した等の教育改善の効果を、データなどに基づいて客観的に示して下さい。(できるだけ統計的検定結果を含めて下さい。)

(客観的に改善効果を示すための参考例)

(例1) e-Learning システムの LMS データ等の分析で、明らかな教育効果の向上が認められた。

(例2) 授業アンケート結果で、明らかな教育効果の向上が認められた。

(例3) 期末テスト等の経年比較において、明らかな教育効果の向上が認められた。

(例4) ルーブリック評価の結果から、明らかな教育効果の向上が認められた。

(例5) 国家試験等の合格者数に明らかな伸びが認められた。

(例6) 第三者による外部評価で効果が認められた。

4. 結果の考察

本研究の結果から、ICT の利活用によって教育改善に貢献した要因を考察し、課題や問題点及び今後の発展性、教育の質向上への寄与等について、示して下さい。

5. 謝辞(任意)

研究協力者名(企業、学生など研究に協力した人)は、ここに含めて下さい。
※研究発表者および共同研究者は、大学・短期大学の教員に限られます。

6. 参考文献および関連 URL

以下を参考に表記下さい。

- [1]著者名、タイトル、論文誌名、巻番号(ゴシック体)、ページ番号、年(西暦)
- [2]著者名、タイトル、出版社名、年(西暦)
- [3]ホームページ名あるいは機関名、URL、([西暦]年○月○日参照)

- ◎ 『発表会論文』は4ページです。(図表・写真を含む)
詳細は「発表会論文のフォーマット」記載内容を参照下さい。
- ◎ Word形式とPDF形式の2つのファイルを提出してください。